

ゴダールの探偵（1985）

DETECTIVE

メディア 映画

ジャンル アート ドラマ

製作国 フランス

色彩 Color

時間 105分

初公開日 1986/05/01

公開情報 PARCO=シネマテン

【解説】

イシドール（レオ）は叔父ウィリアムの二年前の“しくじり”を挽回しようと、彼と恋人アリエルと共に張り込みを続けている。パリ・サン・ラザール、コンコルド・ホテルの窓からの定点観測。叔父はホテルに雇われた探偵だったが、監視中に殺人事件が起き、クビになったのだ。一方、パイロットの夫ルチアーノ（ブラスール）と共にチャーター機会社を営むフランソワーズことジェヌヴィエーヴ（バイ）は、マフィアの金を4000万フラン横領したボクシング・ジムの経営者でプロモーターのフォックス（アリディ）から、彼に借した金4000フランを取り返し、夫と別れて以後の再出発の資金にしようと考えていたが、フォックスにはその程度の金もなかった。家族を連れ悠然と過ごすマフィアのボスの、フォックスへの取り立て勧告の言葉は、紳士的ではあったが重々しく、彼は戦々恐々としていた。金の卵のはずのボクサー、タイガーは女と乳繰りあってばかりだ……。といった四組のグループの錯綜した関係を、ゲーム感覚（コンピューターも登場する）で並走させる、ゴダール流フィルム・ノワール85年仕様。それぞれの立場や関わりだけ取れば分かりやすい題材が、どんどん上滑りしていった、別の意味を包含するようになる“重層構造”の物語だが、いつもの一本通底するテーマがあまり見えてこないの、かなり“通じなさ”を感じた。ただ、終わりの方に提示される彼が映画を愛する根拠——映画は結果であり、勝敗はともかく、賭けはすでに済んでいる。従って“解釈”が王様になり得る、という考え——には我が意を得たりという所か。エドガー・G・ウルマーとカサヴェテスとイーストウッドに捧げられた——ということも、作品理解への共通分母とはなりそうだ。

【クレジット】

監督	ジャン＝リュック・ゴダール	Jean-Luc Godard
製作	アラン・サルド	Alain Sarde
脚本	ジャン＝リュック・ゴダール	Jean-Luc Godard
	アラン・サルド	Alain Sarde
	フィリップ・セトボン	Philippe Setbon
撮影	ブルーノ・ニュイッテン	Bruno Nuytten
音楽	ピエール・ガメ	
出演	ジョニー・アリディ	Johnny Hallyday
	ナタリー・バイ	Nathalie Baye
	クロード・ブラスール	Claude Brasseur
	ローラン・テルジェフ	Laurent Terzieff
	ジャン＝ピエール・レオ	Jean-Pierre Leaud
	アラン・キューニー	Alain Cuny
	ジュリー・デルピー	Julie Delpy
	エマニュエル・セニエ	Emmanuelle Seigner